

第57号

2019. 12. 20

日本歯科技工士連盟機関紙

れんめい

発行 日本歯科技工士連盟
東京都新宿区市谷左内町 21-5
歯科技工士会館内
発行人 石原義博
編集 日本歯科技工士連盟

執行部提出全議案を承認

2019 年度第 2 回評議員会

日本歯科技工士連盟（会長・杉岡範明）は、去る 11 月 16 日（土）、歯科技工士会館において 2019 年度第 2 回評議員会を開催した。

開会に先立ち、7 月に行われた第 25 回参議院議員通常選挙において当選された石田昌宏議員が来館し、選挙支援に対する御礼と今後の活動に向けた抱負を述べられた（要旨別掲）。

評議員会では始めに河野喜久巳副議長（愛媛）が氏名点呼を行い、評議員定数 60 名に対し 59 名の出席を確認（後刻 1 名の出席確認）し、上野 博議長（新潟）に報告。これを受け議長が、日本歯科技工士連盟規約第 26 条に基づき 2019 年度第 2 回評議員会の開会を宣言した。議事録署名人の選出は議長一任となり、狩野真澄評議員（東京）と時見高志評議員（大阪）が指名された。その後、杉岡範明会長の挨拶（要旨別掲）に移った。

引き続き議長が議事に入る旨を議場に告げ、執行部より第 1 号議案及び第 2 号議案が一括で上程された。

はじめに第 1 号議案「2020 年度活動方針承認を求める件」が大西清支理事長より上程され、2020 年度も日本歯科技工士連盟は国民歯科医療の充実と発展のために政策を実現させる活動に邁進するとし、「歯冠修復及び欠損補綴の円滑な実施が良質な歯科医療の確保に資するという趣旨を歯科医師と歯科技工士が共有し、製作技工に関わる主な項目と技術点数および特定保険医療材料点数を関係者に周知するとともに、歯科の医療費の適正な評価を求める渉外活動を行う」、「超高齢社会における歯科技工士の業務の在り方を検討し、多様化するニーズに対応できる質の高い歯科技工士教育を実現するため、教育の充実に向けた渉外活動を行う」、「歯科技工士の抱える課題解決のための社会 P R として、『歯科技工士の明るい未来に向けた提言』を積極的



に活用する」、「歯科技工所の運営と管理について、さらなる充実を図るための活動を行う」、「公益社団法人日本歯科技工士会が取り組む事業の円滑な実施を導くための活動を行う」を活動方針大綱に掲げ活動していく旨の説明と、重点的に取り組む活動についての説明がなされた。

次に第 2 号議案「2020 年度予算承認を求める件」が阿部正徳副理事長より上程され、資料を基に予算案に関する説明がなされた。また、杉岡会長より時局・渉外関連の報告として、国の歯科口腔保健政策の方向性についての解説や、歯科技工士基礎教育の年限延長をはじめとする諸課題の解決に向けた渉外活動等についての説明が行われた。その後、質疑応答を経て採決を行った結果、第 1 号議案、第 2 号議案とも賛成多数により承認された。

引き続き第 3 号議案「日本歯科技工士連盟規約一部改正の件」が秋山佳弘副会長より上程され、評議員会開催数変更のための日本歯科技工士連盟規約一部改正について内容の説明が行われた。あわせて大西理事長より、評議員会開催数変更により削減される経費について説明が行われた。いくつかの質疑応答を経て採決を行った結果、賛成多数で承認された。

引き続き協議事項「組織拡充について」として小川博和副会長より賛助会員に関する説明が行われた。次いで報告事項として、「第 25 回参議院議員通常選挙日技連盟推薦（支援）候補者結果報告」、「広報関連報告」、「2020 年度組織活動交付金並びに新卒者入会推進費の支給について」等に関する報告が行われた。

最後に議長が議事進行への協力御礼を述べ、全日程が終了した。



課題解決に向けた環境が 整いつつある

杉岡会長挨拶要旨

2019 年度日本歯科技工士連盟第 2 回評議員会にご出席いただきありがとうございます。

まずは、先の台風及び豪雨によって被災された皆さまに、心からお見舞い申し上げます。本会の会員被害状況の集計では、人的被害はありませんでしたが、床上浸水はもちろんのこと、床下浸水、一部損壊も含めると 7 地域組織、28 名の皆さまに被害が及んでいます。広範囲であることから、少しでも復旧に役立ててもらうための募金活動を行いますので、皆様のご協力を心からお願いいたします。

さて、本年 3 月の第 1 回評議員会は、連盟組織創立 60 周年という節目の評議員会でした。「先人への感

謝」と「今を生きる者の協調」、そして「次世代のための希望」を掲げ、ご挨拶させていただきました。改めて、歯科保健医療を支える歯科技工士の目指す制度、政策を実現させるために、一致団結して 60 年目の第 1 歩を力強く踏み出したいと思います。

本年夏の第 25 回参議院議員通常選挙では、われわれ日本歯科技工士連盟と友好関係にある日本看護連盟の石田まさひろ議員の支援を始め、歯科技工士と友好関係にある諸団体と協調しながら、皆さんと力を合わせ間違いのない対応を行いました。

また、地方選挙では、従来から地域組織連盟からの推薦に基づいて、歯科技工士免許保持者の地方議会

への挑戦も支援し、歯科技工士の社会的評価を高め、環境改善に資する一層の体制作りができたと思っています。

私は 5 年前、会長に就任した折に、個人的な不利益があろうとも障害や圧力があろうとも、やらなければならないことはやる。そのためには、現実を見据えた戦略を練り、必ずやり遂げることを表明しました。なぜなら、それが今を生きる私たちの使命だという強い信念があるからです。

そして、その想いが人の心を動かし、まさに課題解決に向けた環境が整いつつあります。今こそ、この好機を逃すことのないように、各級議員を始め、日本歯科技工士連盟、地域組織連盟、そして公益社団法人日本歯科技工士会が一体となって、夢の実現に力を出し切ろうではありませんか。

結びに、次の世代が少しでも良い環境で働けるように、長くこの仕事を続けられるように、そして歯科技工士になって良かったと思えるように、共に力を尽くすことを願い、挨拶といたします。

第2回評議員会質疑応答要旨

《質問》 厚生労働省との折衝は進んできているようだが、日本歯科医師会との連携や協議の様子があまり見えてこないと感じる。状況をお伺いしたい。(鳥取・小屋本評議員)



《回答》 以前からご説明している通り、製作技工に要する費用が担当者に正当に届くシステムの確立に向けた取り組みとして、日本歯科医師会とはこれまでに何度も、製作技工に関する考え方について意見交換を重ねてきた。2016年12月には日歯会館で、また2017年1月には歯科技工士会館で意見交換会を開催した。7月には歯科技工士7対3勉強会を開催したが、その際に日歯の役員が言ったことは、この件に関する認識は、平成4年に中原日歯会長と佐野日技会長が連名で当時の自民党社会部会の歯科問題小委員会の戸井田委員長に提出した文書そのものである、それ以上でもそれ以下でもないということであった。

その文書に書かれていたことは、「今後の高齢化社会における歯科診療では、歯冠修復及び欠損補てつの分野が一層重要性を増すことに鑑み、日本歯科医師会並びに日本歯科技工士会は、昭和63年5月30日付厚生省告示歯科診療報酬点数表第11部(現在は12部)歯冠修復及び欠損補てつの通則における合意の精神に沿い、今般の改定結果が委託技工の面にも適切に反映するよう円滑な実施に対する指導方を再確認いたしました」ということであり、製作技工に要する費用がおおむね7割、製作管理に要する費用がおおむね3割だということを、それぞれが確実に守って対応していただきたいという話である。

昨年度から厚生労働省保険局医療課が診療報酬についてのセミナーを実施しているが、今年は歯科医師が10名以上参加した場所もあった。そうした機会を通じ、製作技工に要する費用の仕組みを歯科医師と歯科技工士が共有することで良い方向に向かうと考えている。(杉岡会長)

《質問》 修業年限の延長について、厚生労働省の「歯科技工士の養成と確保に関する検討会」ではどのような受けとめ方をされているか、どのような形で報告書に盛り込まれようとしているか、話せる範囲でお聞かせいただきたい。(兵庫・宅見評議員)



《回答》 現在、歯科技工士は2年制で62単位だが、例えば3年制の診療放射線技師や柔道整復師は95単位となっている。95単位と62単位の差は何かというと、教育内容と教科である。62単位のままで3年制にしても意味がないわけであり、超高齢社会で歯科技工士が求められる役割、地域包括ケアやチェアサイドでの業務などを想定した場合に必要な教育内容を増やして質の高い歯科技工士を養成することに意義があると思っている。学生がなかなか集まらない現状をふまえ、学校経営者の集まりである全技教が簡単に賛成できないという気持ちも分からなくはないが、職業教育学校というのは本来、「この仕事に就いてよかった」と卒業生に思ってもらえるようにしなければいけないはずである。

会員・賛助会員募集中！

日本歯科技工士連盟では、会員並びに賛助会員を募集中です。詳しくは後日お送りするご案内をご覧ください。

参議院議員

石田昌宏先生 ご挨拶

皆さま、おはようございます。参議院議員の石田昌宏です。この度の参議院議員選挙ではお力添えをいただきまして、無事に当選することができました。医療や福祉関係の候補者が自民党の比例区で乱立した中、もっとも良い成績で当選することができ、こうして2期目のスタートを切ることができました。日本歯科技工士連盟様からは推薦状をいただきました。改めてお礼申し上げます。ありがとうございました。

現在、私は自民党の副幹事長を務めるとともに、参議院では厚生労働委員会の筆頭理事をやらせていただいております。選挙前は委員長だったのですが、現在は筆頭理事として、実質的に与党内や野党と交渉して委員会を回していく役割に就かせていただいております。大変ですが、やりがいのある仕事です。委員会が開かれるかどうか自分の対応で決まる状況にあり、役所とのやりとりも非常に増えています。従って厚生省はじめ中央官庁に対する発言も今まで以上にできるようにしていることは実務的に嬉しく思っております。

私は常々、現場が大事だと思っております。可能な限り現場を見に行くようにしております。今回の選挙後、歯科技工士の皆さま方が働いている場所を何力所か見学させていただきました。皆さま本当に素晴らしい仕事をされていて、職人という表現が正しいかどうかわかりませんが、お一人おひとりの匠の技で人々の歯が守られているのだということ、それが食べる喜びや生きる幸せにつながっているのだということを感じました。

一方で、働く現場を訪れると「このような環境で…」と正直驚きました。もう少し工場のような場所でつくられているのかと素人ながらに思っていたのですが、ご自身の家、ご自身の部屋を使いながら、粉じんが飛ぶ中で朝から夜中まで仕事をされている現状を目の当たりにし、このような働き方で日本人の幸せが守られているのは本当にいいのだろうかと思うようになりました。

また、業界全体を見ると、経済的な状況も含め、やはり歪んでいるところがあるのではないかとというのが率直な感想です。それがまさしく現在の労働環境を生んでいる一つの要因なのではないかと思います。

歯科技工所を見学させていただいて以降、厚生労働省の

卒業させた後にすぐ離職するような環境のままにしておくことは、真の学校経営とは言えないのではないかと。現在は学校経営者の方々のご理解もかなり深まっており、確実に前進している。(杉岡会長)

《質問》 杉岡会長の3期6年、事実として有資格者の会員が減少しており、当然ながら会費収入も減っている。そのような中、評議員会を年2回から1回に減らすことは苦渋の決断だったろうと理解をしているが、会長自身は会員減少が続いている現状をどのようにお考えになっているか。(神奈川・河西評議員)



《回答》 歯科技工士に限らず、現在は組織に関わることを好まない世代の人たちが日本全体で増えてきているようだが、会員数の減少が続いていることについては会長として大変申し訳なく、責任を感じている。

しかし、その状況を打開するための施策が着実に進んでいることも事実であり、引き続き日本歯科技工士連盟と地域組織連盟が一体となって取り組むことが何よりも重要だと考えている。(杉岡会長)

《質問》 現在、医科歯科連携を進めていこうということで、「口腔の健康が全身の健康に関わる」というところを強く打ち出していると思う。特に介護においては口腔環境が重要であり、歯科医師や歯科衛生士の役割が非常にピックアップされているが、一方で歯科技工という言葉は出てこない。歯科技工の重要性が軽視されているよう



担当部署と何度かやりとりをしています。表で見えるところと言うだけではなく、役所の人間と直接相対して交渉することも我々の大事な役割です。役所もある程度は現状を把握しているながらも、いろいろな力の中で現状を変えることが簡単ではないということも伝わりました。それでも変えていかなければなりません。そこに私もぜひ貢献したいと思っております。

3Dプリンターの急速な普及も課題です。今後の技術の進展の状況にもよるでしょうが、人工知能なども含め、技術が一気に入ってくるかもしれません。まったく違う未来が見えてくる可能性もあると感じました。これをうまく自分たちでキャッチアップして、業界として、機械にとって代わられるのではなく、機械を使いながらさらに質の向上や効果の高いものをつくっていくことに取り組まなければならないと思います。

こうした技術は日本国内だけではなく世界中で進んでいくものですから、世界にはもっとすごい補綴物の作り方があるのに日本だけできない、ということは許されない時代です。そこをどのようにうまく入れていくかということも一緒に考えていけたら嬉しいです。

私はこれまで看護師として、病院、診療所、訪問看護ステーション、福祉施設、在宅など、いろいろな現場を見てきて、いろいろな取り組みをしてきたつもりです。歯科技工士の皆さんの技術と健康への貢献は日本にとって多大なるものがあります。だからこそ、より力を入れなければいけないと心の底から思っています。

まだまだ知らないことがありますので、これからもぜひ対話を深めさせてください。少しでも多くの力を歯科技工士の今、そして未来のために使わせていただくことを改めて決意いたしました。これからもよろしくお願いいたします。

に感じている。医療の中での歯科技工の役割をより明確に発するべきと考えるが、お考えをお聞かせいただきたい。(長崎・土肥評議員)



《回答》 私も土肥評議員と同様、それが医療技術者としての歯科技工士のあるべき姿だと考えている。そのためにはやはり教育が重要であり、修業年限の延長が必要である。医療の中で歯科技工士がどのような役割を担うかについては、クリアしなければいけない問題もいくつかあるので、今後も引き続き厚生労働省と協議を進めながら取り組んでまいりたい。(杉岡会長)

《質問》 看護連盟出身の石田昌宏議員がお越しになり、会長も「看護連盟から学ぶことが多い」と述べられていたが、看護連盟といえば連盟組織が非常に強く、いろいろな制度をつくって一気に会員数を増やした経緯がある。その連盟組織の活動の一番よかった点は、看護師を評価する点数を設置したことだ。そのために、看護協会が主催する勉強会、認定看護師等々を厚生労働省が認めるようになった。われわれもこれを参考に、何かしら具体的な対策を講じる必要があるのではないかと。(大阪・時見評議員)



《回答》 私たちも公益日技に「管理者資格と認定施設の制度構築PT」というプロジェクトチームを設置し、認定制度の検討を進めている。2020年6月の社員総会で議案として上程しご説明する予定である。(杉岡会長)